

フォーラム「多胎児育児を巡る問題点」

分担研究報告

(分担研究：多胎児に対するケアのあり方に関する研究)

分担研究者 竹内 豊

当分担研究班では、実際に多胎児を出産し育児を経験された母親の方達と育児を巡る問題点についてフォーラムを開いて意見の交換を行ったのでその概要を報告する。

出席：寺尾俊彦、竹内 豊、小口弘毅、中村利彦、服部 司、堀内 勤、大岸弘子
小林美智子、高階千江子、早川和生（以上研究班員）
中野 恵、高島樹子（秋田県大曲保健所）、笹本優佳（聖マリアンナ医科大学西院）
中西真弓（大阪府立母子保健総合医療センター）、喜田善和（松戸市立病院）
天羽幸子、四村摂子、榎府暢子、早内由美子、東海林文子、田嶋みさ子、湯本静子
広原美津恵（以上ツインマザーズクラブの会員）

司会：この度、厚生省は心身障害研究の一つとして新たに「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」班を発足させました。これは近年増加しつつある多胎妊娠の実状を調査し、その妊娠管理の改善を図り、出産した多胎児育児への支援を考えるものです。

本日は多胎児育児への具体的な支援策を考えるために、実際に多胎児をお持ちのお母さん方にお集まりいただき、妊娠から育児までの不安や、困ったこと、こうあってほしいという要望など経験されたことを伺って我々の今後の指針とさせていただきます。まずはじめにツインマザーズクラブの天羽様からお話をさせていただきます。

天羽：ツインマザーズクラブの紹介を行いますと、26年前に作った会で、現在会員は全国に3800人以上います。会報を年5回発行し、年2回位の講演会を催しています。本日は大阪と東京の会員の方に出席していただきましたので、まず皆様から体験談をお話していただきます。

本上：産院に対して行ってほしい要望として次の3点を挙げたいのです。

1. 双胎妊娠について理解を示し、妊婦の不安を取り除くように精神的なバックアップをしてほしい。出産に対する危険やそれらの予防法や病院側の対処の方法をもう少し具体的に説明してほしい。
2. 多胎児を妊娠している妊婦さん達の交流の場を提供してほしい。
3. 退院後の育児について、授乳や沐浴の仕方など具体的なアドバイスをしてほしい。出産までに経験者である双子のお母さんに話を聴く機会を作ってもらえるとよい。などです。

さらに行政に望むこととしては、多胎児を育てている家庭に対してヘルパーさんを派遣してほしい。物理的に忙しいは言うに及ばず、公園や外気浴のための外出もいっさいままならない。きわめて強いストレス下におかれた状態となってしまいます。こんな時誰か手伝ってくれる人がいたらとても助かります。

湯本：双胎妊娠とわかったときから絶対安静と言われて不安と苦痛の毎日でした。さらに入院を勧められたときには上に子どもがいたのでこれも容易には出来ず大変困りました。

出産してからの事では、経済的な負担がとても多くて困った。

一人の子が心房中隔欠損症で病院通いをしていたため、民間の家政婦協会に頼んだのですが、結局子どもが四人いるということでだれも来てもらえませんでした。そんなとき公的な援助があったら強く思いました。保健婦さんの訪問は一回だけでした。特に沐浴の時にはパニックになってしまうので、祖母などが引き上げてしまった後など、たとえ声をかけてくれるだけでも心が休まることと思います。

広原：私の場合には子供が1200gと1000gの未熟児で生まれ、3カ月間新生児科に入院したため、育児のはじめの一番つらい時期を経験しなかったように思います。退院してからは初めての子供だったのでミルクの与え方、沐浴の仕方などに大変戸惑いを覚えました。それも主人や私の母に手伝ってもらって何とかこなしている内はよかったのですが、母も仕事を持っており、片道1時間半かけて通う状態でもあり、毎日という訳にはいけなくなりました。1年半位は全く外出も出来ませんでした。そんなときヘルパーさんがいてくれたらと強く感じていました。

それからツインマザーズクラブの事ですが、話には聴いていましたがどの様にして入会するのかも全く分からずにきました。情報が本当に少ないと思います。

天羽：私達ツインマザーズクラブでこのあいだ3000人位を調査しましたが、平成になって急に二卵性の出生が増えてきていることが分かりました。いままで日本の場合一卵性の双胎が二卵性の倍あったのですが、これがほぼ同数になってきています。不妊治療による妊娠が二卵性の場合30%以上を占めています。不妊治療の場合、多胎妊娠の可能性と多胎児育児についてもっと説明する必要があります。

妊娠管理の問題ですが、ただ「だいじょうぶ」という説明だけでは不安をつのらせるだけです。どういう事が起こるのか、その時にはどの様に対処するのかなど具体的な知的なフォローが必要です。

多胎児の母はいわゆるマタニティーブルーの発生が高いと思います。子供の状態ばかりでなく母親の心理面にもサポートをしていただきたいと思います。

保健所の方へは、もっと多胎児育児に関する基本的な知識をもっていただきたいと願っております。出産前の妊婦さんの時から双子の母親と交わって座談会など出来るように組織作りをしていただけるとよいとおもいます。

それから行政的なことですが、ヘルパーさんの派遣についてはぜひ提言して下さい。お母さん達が求めている

のはそんなに長い期間ではないのです。手助けだけでなく、精神的な援助や虐待を防ぐとかいろいろな面でサポートしていただけたと思います。

司会：それではここで研究班員の方からの質問やコメントをしていただきたいと思います。

中村：新生児をみる小児科医の立場から伺いますが、妊娠から出産までに小児科医の話を聴くチャンスはありましたか？

天羽：皆さんそういう経験は殆どないと思います。

中村：お父さん、御主人ですがお父さんの協力はどのようですか？

湯本：私は双子妊娠を告げられたときに震えが止まりませんでした。主人に電話したら、絶句して何もしゃべりませんでした。今度は主人に対して少し険悪となりました。あまり協力的でないのです。

小口：双胎は未熟児出産が非常に多く早くから産科管理をすることが多いのですが、そんなときに小児科医が行って危険性について説明してよいのですか？かえって心配を増すような気もしますが。

早内：妊娠したときには不安はありますがそれは漠然とした不安で双子がハイリスクと言うのは今になって分かって来ました。

陣痛誘発剤を使うとき多胎になるかも知れませんがという説明はありますが、その多胎がハイリスクですよという説明はないのです。

堀内：早産防止で早くから長期間入院しているときに、医療側に対してぜひしてほしいと思われることはなんですか？

早内：何につけてもなかなか説明をしてもらえないということです。ただ、双子でいま生まれたら助かりませんよということだけでした。

服部：妊娠中についての説明ですけど、双胎では脳障害の危険が高いという説明までもしてほしいと思いますか？

東海林：何か治療の必要なときにはきちんと説明してほしいのですが、普通の状態の時には不安をかりたてするような情報は要らないと思います。何を持って情報と呼ぶかは難しいのですが。

小口：例えば双胎に関しては、36週以下で生まれる可能性が60%で、32週以下が15%で約10%が脳性麻痺になるという話まですすめてもよいのですか？

榎府：ケースにもよると思いますが、概念としてある程度のお話を伺っておくのは必要だと思います。日常生活でもその危険性に入らないために普通よりは気をつけなければならないと思いますし、ある程度のももとの概念がある中でさらに必要に応じて知識を分けていただければ、早い時期から信頼関係が出来て少しずつ心構えが出来ると思います。

司会：次に出産後の育児上の問題点に話を移らせていただきます。

堀内：ヘルパーさんの要望が多いのですが、ヘルパーさんとしてはどんな条件の方がいいのでしょうか？

榎府：事態が急変することが子供の場合よくありますので、こまめに来ていただける方がよいのですが、実際には育児にかかわっていただける方にはなかなかめぐりあえません。

司会：御両親だけで子育てをされた方いらっしゃいましたら、そのご苦労をお話下さい。

四村：おふろの役目はいつも主人の仕事で、そのため6時半には必ず帰ってもらっていました。そのことは会社にも分かってもらっていました。

東海林：うちでは主人が早く帰れませんでしたので、私が鍵をかけて裸で家中かけずり回って一人でおふろにいました。買物をしたり、子供が病気になってお医者さんに通うときにはもうとても大変でした。一人が病気でも結局二人を連れ出さなくてはならないので大変苦痛でしたし、もう一方の子も行かなくてもよい病院がよいで病気になったりしました。

天羽：子育てをしているうちに段々追いつめられたような気持ちになることがあります。夜泣きなどされると、首をしめたくなることもあります。それはごく限られた人のことでなく、普通のお母さんに起こり得ることなのだと思えました。そんなときには育児だけに閉ざされないで外に出ることが一番よいのです。週に何回か人手を当てに出来るということが一番いいのじゃないかと思います。

中野：先ほど高階から五つ子対策について発表致しましたが、ホームヘルパーという方々は今は高齢者の方を対象とした人だけなのです。皆さん方に必要なヘルパーと言うことに関しては、それだけの技量を持っている方、皆さんが求めているような方と言うのはなかなか見つからないのです。そこでこれから制度を作って行くときに皆さん方が後輩達をバックアップ出来るような人材かなとも思います。そこで晴れて育児支援対策が出来たときに、皆さん方が率先して手を挙げてくださるかどうかが将来展望としてお聴きしたいと思います。

東海林：ツインマザー・スクワッドでもそういう話はよくです。私自身はそういうお手伝いをしてもいいと思っている一人です。

天羽：子供の介護と言うのは危険を伴うことなのです。子育てヘルパーはかなり責任のある仕事です。そこら辺を公的なものできちっと手当をして制度化していただきたいと思います。かなりハードな仕事ですからせいぜい40代位の方となるでしょう。

司会：ここから、保健婦さんの関与も含めて育児上の悩みや問題点についてのカウンセリングについて話を進めたいと思います。

小口：母乳栄養についてお聞きしたいのですが、ツインマザー・スクワッドではこのことに関して特別の指導をされていますか？

天羽：クラブとしては特別の方針はありません。やはり皆さん母乳だけで足りたという方は少ないのではないのでしょうか

水上：私は母乳とミルクと両方を使って同時授乳していました。その様はとても人におみせ出来るようなものではありません。二人とも母乳だけで栄養したいと思う気持ちはとても強いのですが、それが出来ないのが苦痛でした。

堀内：双子のお母さんに母乳を強要することは負担を増すこともあり赤ちゃんとの結び付きにも影響することもあると授乳指導はとても難しく感じています。具体的な指導を受けられた方がいらっしゃいましたらそれを教えて下さい。

四村：冷凍母乳を使って母乳栄養をするという話があります。

仰向きに寝て両側から同時授乳する方もいらっしゃいます。

本上：指導はなにも受けませんでした。天羽先生のかかれた本をみて同時授乳と言うことを知り、日常生活の中でやむにやまれず始めたのがそれです。

田嶋：病院では何も指導は受けませんでした。桶谷式指

導を受けて知ったのですが、実際にはなかなか出来ませんでした。

天羽：私はアメリカの育児書をみて、その解説図をみながら病院で枕をもらって同時授乳していました。片方にかまっていると片方が枕から転げ落ちることがよくありましたが。

大岸：私も病院では何も指導されず、クラブの看護婦さんのお母さんから教えてもらいました。私は双子がよく生まれる管内の保健婦をしています。2-3週おきに訪問に行き妊娠中から教えています。同時授乳すると子供の寝ている時間が長くなってお母さんも休む時間がとれるのです。子どもを台に乗せる方法もありますが普通の平らな台では駄目なんです。くり抜いたような台でなければ。実際経験した人でないとなかなか分かりません。本当に役に立つ授乳の方法、それは母乳同時授乳でも混合栄養でもよいのですが、とにかく二人一緒に抱っこを飲ませて生活リズムを整えることがお母さんのストレス解消に役立つのです。病院で助産婦さん達がこれをして指導できるようになってほしいと思います。

司会：授乳指導も含めて単胎児とは全く違う多胎児保育に関しては医師、助産婦、保健婦たち専門職の教育が重要なこととなってきました。デンマークでの多胎児ヘルパーはどんな様相ですか

早川：デンマークのヘルパーは比較的若い女性で失業中の女性を公的な費用で派遣しているのです。国によって事情は違いますから日本式のシステムが出来ればよいと思います。それと専門職の教育はぜひ必要なものです。公的ライセンスを取ってもらってもよいと思います。

東海林：私は1歳半検診で子どもが伝い歩きしかしてなくて、他の単胎のお子さん達は皆歩いていて、おかしいといわれて震えがきた経験があります。多胎に関する予備知識とか、リスクの多い出産であるとか、発達の遅れとか、そういう知識は子どもを扱う職業としては基本的なものと思うのですがそれすら身につけてなくて、非常に奇異な目でみられてしまうことがあります。その辺の改革を強く望みます。

司会：経済的な面での問題点については如何ですか

天羽：全国の方から情報をいただいてびっくりしたのですが、乳幼児医療に対する経済的な支援が地方自治体によってさまざまですごく差があることを知りました。この辺は均一な体制を取れないのでしょうか。少なくとも3歳児位までは医療については全ての人が同じ恩恵を受けられるようにしてほしいと思います。

東海林：私が負担が多かったのは保育園です。地域によっては公立がほとんどなくて、そんなときには保育代が大きな負担になります。

広原：私も転居致しましたら医療費の免除が全く違うのに驚きました。

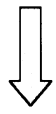
四村：私も前に住んでいたところでは年に一万円いただいていた。これは就学前制度でしたが、転居した先ではその土地で生まれていないと適用されないとのことでした。

本上：保育料のことですけれど、うちは公立の幼稚園に抽選でもれてしまい、やむなく私立の幼稚園にいれました。保育料に加えて給食代、バス代、制服、帽子など二人分の経費は大変でした。補助金制度もあるのですが地域によってずいぶん違うようです。

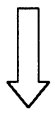
司会：子育てしやすい町を選ばないと行けないということですが、全体的なレベルアップをしないと行けないということですね。

早内：障害をもったお子さんの場合にはもっと深刻です。私の子どもは隣の県の病院に通っていますが、薬は院外処方であつた家でももらいます。そうするとただになります。他府県の医療施設での診療に対する援助はないのです。多胎児の金銭的援助をしてくださるのなら全国レベルで統一した形でやってほしいと思います。

司会：いろいろと問題点提起をしていただいて有難うございました。本日は多胎児を育てていらっしゃるお母さま方から直接お話を伺って、現実のご苦労を感じ取りたいと思ひまして天羽先生をお願い致しましてこの会を企画致しました。我々が取り組まなければならないことの重要性和方向を感じることが出来ました。多胎児を安心して産めるような社会になれば日本全体の母子保健が充実することになるでしょう。その一つのインデックスバロメーターとして多胎児育児について考えて行きたいと思ひます。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



当分担研究班では、実際に多胎児を出産し育児を経験された母親の方達と育児を巡る問題点についてフォーラムを開いて意見の交換を行ったのでその概要を報告する。